

# 目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	産業研究所
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各事業の運営には、学部・研究科の垣根を越えて、テーマに適材の人物を核に当てる。	→研究プロジェクトには、経済学部、商学部以外の代表者によるプロジェクトを創出させる。	A	A	A		
2. 毎年新設する研究プロジェクトの研究員は、特定学部へ偏らないように、テーマに応じて広く学内の各部局から選ぶ。	→研究プロジェクトの学内研究員は、原則として3学部以上からの構成とする。	B	A	A		
3. 産業研究所独自の活動以外に、大学の主催する学術行事や国際交流活動についても、企画、運営を担当する。	→大学主催行事の企画、運営を毎年2件以上担う。	B	A	B		
4. 他大学や学外機関と連携するEUIJ関西事業や日中経済シンポジウム事業を毎年企画・運営する。	→EUIJ関西行事、EU情報センター行事を毎年5件以上行う。日中経済シンポジウムを毎年開催する。	A	A	A		
5. 事務職員が『産研叢書』『産研論集』編集に加わり、迅速性と明瞭なレイアウトにする。(意見交換後修正)	→『産研叢書』は、学外者の書評(『産研論集』掲載)で肯定的な評価を受ける。『産研論集』は企画論文を毎年必須にしている。	A	A	A		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度の3プロジェクトの代表者は、「アジアにおける市場性と産業競争力」商学部教員、「日本の国際開発援助事業」国際学部教員、「公共インフラの整備と地域振興政策の推進」総合政策学部教員と、特定学部には偏らない状態としている。
目標2	2011年度に発足した「公共インフラの整備と地域振興政策の推進」プロジェクトは、学内研究員の所属が経済学部3名、商学部1名、総合政策学部2名と3学部にまたがり、代表者は総合政策学部教員となっている。
目標3	産業研究所が企画、運営した大学主催行事は、第5回日中経済社会発展フォーラム（2012年2月22日、大阪国際交流センター）1回に留まった。
目標4	2011年度中に、EUIJ関西行事8件、EUi（EU情報センター）行事1件、日中経済社会発展フォーラム1回を開催した。
目標5	2010年度で活動を終了した「関西経済と景気循環指数に関する総合的研究」プロジェクトの研究成果を、産研叢書35として、根岸紳編著『関西経済の構造と景気指数』の書名で日本評論社から2012年3月に刊行した。
備考	